

～曲がるストローを使った動く仕組みを生かして、楽しいおもちゃをつくる～

広島市立東野小学校 槇岡 千代希

1 日時・場所 10月17日(月)第5校時 2年2組教室

2 学年・学級 第2学年2組(男子16名 女子16名)

3 題材について

- 本学級の児童は、つくったりかいたりする活動そのものを楽しみ、夢中になって取り組む児童が多い。しかし、イメージがわからず取りかかりに時間がかかる児童や、自信がもてず友達の活動ばかり気にする児童がいる。カッターナイフを使った「きってきってめくるんるん」では、はさみやカッターナイフで切る作業やセロハンテープやのりで貼る作業が苦手で、イメージ通りに表現できない児童や、机の上を整理できずスムーズに活動が進められない児童がいた。また、作った形や用意した材料から表現が広がらず、活動が止まる児童がいる。できあがった作品の鑑賞では、積極的に友達に説明する児童が多く、友達の工夫や自分が気に入った部分を見つけて伝えようとする姿が見られる。
- 本題材は、曲がるストローを使い、動きのある楽しいおもちゃを作る題材である。自分がつくった作品が動くということは、児童にとって大変興味が高いものである。また、動く仕組みから児童の様々な発想が生まれ、自分の思いに合った動きに合う形を考えたり色を選んだりすることで、児童の思いが広がり楽しく取り組める。このような題材では、つくっては考え、考えてはつくるという試行錯誤をすることが必然的に求められ、動きだけではなく、周りの工夫にも目を向けて活動する中で、発想・構想する力が発揮されると考えた。
- 指導に当たっては、参考作品が実際に動くところを見せ、動くおもちゃに興味をもてるようにする。また、第一次ではおもちゃを動かして遊ぶことで、動く仕組みに関心を持ち、イメージを広げられる時間を設定する。動く仕組みづくりでは、教師が実際につくるところを見せ、つくり方を理解するとともに、「仕組みコーナー」にストローの本数やつなげ方の異なる仕組みを置き、動きを確かめられるようにする。絵や文でイメージ図をかくことで、動く仕組みから具体的にイメージを広げ、使いたい材料を考えられるようにする。材料集めの期間を十分にとり、作りたいおもちゃのイメージを強めながら自分の思いに合った材料を持参することで、意欲的におもちゃ作りに取りかかれるようにする。つくる過程では、思いに沿った作品ができるよう、動きを確認しながらつくるように促す。自信を持ってない児童には、イメージ図や持参した材料を見ながら思いを聞き出し、寄り添い励ましながら認めることで表現を引き出したい。また、表現が広がらず活動が止まる児童には、児童の思いを聞き出すとともに、友達の作品や「材料コーナー」を見てイメージを膨らませられるように声をかける。技能面では、思い通りのものを表現する基本となる材料の接着の仕方について確認し、活動に入る。鑑賞の時間には、互いに作品を見せ合うことで、友達の作品のよいところに気付くとともに、自分の作品の中に自分らしさを感じられるようにする。

4 題材の目標

- ・曲がるストローを使った動く仕組みを生かして、楽しいおもちゃを工夫してつくる。

5 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
題材の 評価規準	①ストローを使って、動く楽しいものをつくらうとする。 ②つくりたい物に合わせて材料を集める。	動く仕組みを理解し、動きを生かせるものを考える。	自分の思いに合わせて材料や用具を選び、形や色、大きさなどの表現を工夫する。	作品を動かして遊びながら、動きを生かした面白さやよさを見つけて楽しむ。
学習活動における 具体的評価規準	①動く仕組みを手に取り、楽しいものをつくらうとイメージを膨らませている。 ②自分の思いをもって材料を集めている。	動く仕組みを理解し、思いに合った動きを考えている。	自分の思いに合わせて材料や用具を選び、形や色、大きさなどを考え、動きを確かめながらつくっている。	友達の思いに気づき、よさや工夫を見つけて伝え合っている。

6 指導と評価の計画（全6時間）

時間	学習活動	学習活動における具体的評価規準等		
		観点・評価規準 評価方法	十分満足できると 判断される状況	努力を要する状況への 手だて
第一次 1	・動く仕組みを手にとって遊んだり、集めた材料を紹介し合ったりして、動くおもちゃづくりに興味をもつ。	ア①② ・活動の様子の観察	・動く仕組みを手に取り、その動きに関心をもっている。 ・思いをもって集めた材料を紹介している。	・試作品を実際に動かして見せ、何の動きに見えるかを聞きながら、動くおもちゃに興味をもてるようにする。

<p>第二次 2・3 4 (本時) ・5</p>	<p>・動く仕組みを生かした楽しい作品を考え、簡単な絵や文で表す。</p> <p>・動く仕組みをつくり、動きを見ながら形や色を考える。</p> <p>・自分の思いに合わせて、形や色、大きさなどを工夫しながらつくる。</p> <p>・動く部分だけではなく、作品全体を工夫して、楽しい作品に仕上げる。</p>	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子の観察 ・発言 ・イメージ図 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子の観察 ・作品 	<p>・動く仕組みを理解し、動きを生かせるものを考えている。</p> <p>・自分の思いに合わせて材料や用具を選び、形や色、大きさなどを効果的に表し、動きを確かめながらつくっている。</p>	<p>・仕組みを実際に動かしながら、思いに合った動きをイメージできるように助言する。</p> <p>・いろいろな材料を見せたり、実際に一緒に動きを確認したりする。</p> <p>・友達のよいところに気付いたり、相談したりできるように助言する。</p>
<p>第三次 6</p>	<p>・作品を紹介しあい、作品を動かして遊びながら、動きを生かした面白さやよさに気付く。</p> <p>・動きを生かした楽しいアイデアについて話し合う。</p>	<p>エ</p> <p>活動の様子の観察 発言 ワークシート</p>	<p>・友達の思いに気付き、よさや工夫を見つけて相手に伝えている。</p>	<p>・作品を見た感想を聞き、そこからよいところに気付けるように助言する。</p>

7 本時の目標

- ストローの動きに合わせて自分の思いに合った材料や用具を使い、工夫して表現する。

8 準備物

(指導者)ストロー、色画用紙、折り紙、スポンジ、糸、布、モール、両面テープ、接着剤、油性ペン、めうち、アイスの棒、濡れ雑巾、洗濯ばさみ

(児童)セロハンテープ、のり、はさみ、折り紙、パステック、接着剤、身辺材 (モール、ボタン、綿、糸、布、空き箱、折り紙、割り箸 等)

9 本時の展開

学習活動	教師の支援	評価規準・評価方法
1. これまでの活動を振り返り、	・イメージ図を見たり、実際に動	

<p>本時の活動を知る。</p>	<p>かしたりしながらイメージを膨らませる。</p>	
<p>ストローのうごきをたしかめながら、くふうをしてかざりつけをしよう。</p>		
<p>2. 参考作品をもとに技法を確認する。</p>	<p>・材料の接着の方法について説明をする。</p>	
<p>3. ストローが動く仕組みに合わせて、動く部分や周りの様子をつくる。</p> <p>4. 後片づけをする。</p> <p>5. 次の活動について知る。</p>	<p>・活動内容や時間を板書で確認できるようにしておき、児童が自分で活動を進められるようにする。</p> <p>・仕組みを動かし、思い通りの動きになっているか確かめながらつくるように促す。</p> <p>・飾りが動きの妨げになっている場合、形を再考することを伝える。</p> <p>・接着の方法でつまづいている児童にはアドバイスをする。</p> <p>・飾り付けで迷っている児童には、材料コーナーや仕組みコーナーを見に行くように伝える。</p> <p>・班で協力して、丁寧に片付けるように声かけをする。</p> <p>・動く楽しいおもちゃ作りを工夫しながら続けられるようにする。</p>	<p>動く仕組みを理解し、実際に動かしながら思いにあった動きを考えている。</p> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子の観察 ・作品 <p>自分の思いに合わせて材料や用具を選び、動きがはっきりわかる配色や大きさを考え、動きを確かめながらつくっている。</p> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子の観察 ・作品